
惑星探索船『ユーナディア』（仮）

如月 充

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

惑星探索船『ユーナディア』（仮）

【Nコード】

N3923BA

【作者名】

如月 充

【あらすじ】

人類が、火星に住み始めて318年。しかし、火星に存在していた資源も枯渇し始め地球・火星に変わる人類の住める新たな惑星を探す組織『グレンチエ』が発足した。

その『グレンチエ』に所属する宇宙探索船『ユーナディア』。『ユーナディア』は、惑星が存在する可能性がない火星と木星間の中間地点を搜索していた。

『ユーナディア』に所属するクルーの殆どが見つかるはずが無いと思っている中一機の宇宙機が発見した。

『ユーナディア』の艦長は、早速発見した宇宙機にその惑星を調べ
るように命じるのであった。

第1話

「セツナ機、探索お疲れ様です。直ちに帰還して下さい」

「了解。セツナ・タチバナ、これより着艦シークエンスに入ります」

セツナは、ブリッジの通信官に指示に従い目の前に航空している自分の母艦である惑星探索船『ユーナディア』の格納庫への着艦を進める。

着艦を進めながらセツナは、また見つける事が出来なかったと後悔の念と、早く人間たちが住める新たな惑星を見つけなければという焦りの念を抱いていた。

自分たち人間が宇宙へ進出。そして、火星へと住み着き318年。

最初の頃は、過去の失敗を改め火星で新たな暮らしをしてきた人間だが、時が経つに連れてその最初の頃の考えを忘れてしまった。忘れた人間は、再び資源を際限なく使い始める。その結果、資源が枯渇し始め焦った人間たちは新たな惑星を見つけるための組織を発足。その組織の名は、『グレンチェ』。そして、セツナが乗艦する『ユーナディア』は『グレンチェ』に所属する惑星探索船の1つである。彼らの任務は、ただ一つ。

”地球・火星に変わる人類の住める新たな惑星の発見”

だけである。

そして、今『ユーナディア』は火星と木星の中間辺りを搜索していた。しかし、人類が何百年と掛けても見つかっていない新たな惑星を見つけないというのだから殆ど無茶を通り越して無謀な任務という認識をセツナはしていた。

いや、セツナだけではない。『ユーナディア』にいるクルーの殆どがそう認識しているようだった。

――早く、家に帰いりてえよ

――探すにしてもよあゝ、この辺じゃ意味ねえだろ！？

――ったく！　こんなとこ探してよ何考えてんだ艦長の野郎！？

と陰ながら話しているのを聞いた事があった。

そう、セツナたちが探している火星と木星間に新たな惑星があるはずがない。もし、あるならば既に見つかっているはずだ。

そうクルーの皆が認識していて、艦長に進言しようが船の最終決定権は艦長が持っている。艦長の決定には不服と感じようが、それが命令ならば実行しなければならぬ。

全く、嫌な艦長に当たったなと思い直していると自分が操縦していた宇宙機『ガングーバ』が、格納庫に着艦した振動を感じた。

無事着艦を、確認したセツナは『ガングーバ』に異常がないかサツと目を走らせ確認する。何も異常がない事を確認すると、エンジンを切り操縦室を後にする。

『ガングーバ』の整備を、整備員に任せたセツナは艦長に見つからなかったという報告をしようと考え、ブリッジを目指す。

ブリッジを目指す途中、セツナの目の前からパイロットスーツを着た男性が歩いてくるのが見える。その男性は、ショートの金髪でいつも悩み事なんて無さそうな笑みを浮かべてる。そして、セツナと同じく赤を基調としたパイロットスーツの体にフィットする仕様のおかげでそのガタイの良さが現れている。

だが残念ながら、セツナは本当にパイロットをやっているのかと疑いなくなるほどこちらにやってくる男性と違い、細い。

「よお！　セツナ。お前も報告かあ？」

「うん、そうだよ。スパーダ」

セツナにスパイダと呼ばれた男性は、ある程度セツナとの距離が近づくと右手を軽く上げながら、そう聞いてくる。

セツナもスパイダに、その通りだよと言いながら結果は聞かなくても分かるだろ？　と思いきや、その口から零れる。

スパイダも、セツナの言外の言葉に気づいたのか苦笑を口元に浮かべつつ、じゃあなと言ってセツナの横を通り過ぎる。

おそらく、自分の部屋にでも戻るのだろう。パイロットをやっている自分たちは個室を与えられる。スパイダは与えられている自分の部屋に戻って『ガングーバ』の補給が済むまで休むに違いない。

パイロットは、訓練を除けば通常時は特に何もやる事がない。だが、任務が発生すればその任務が終わるまで休む事は出来なくなる。だから、休める時には殆どのパイロットが自分の部屋で休みを取っている。

だからセツナも、早く報告を終わらせ自分の部屋に戻って休もうと思いきや、歩みの速度を速めた。

「セツナ・タチバナ、入ります！」

4分程歩き、ブリッジの入り口へと着く。セツナは、声を張り上げブリッジの中へと入る。

「……タチバナ准尉か。そこで待っていたまえ」

入る前に名乗った声は聞こえていなかったようだ。ブリッジの扉が開く音で気がついた艦長が後ろを振り向いてセツナにその声を掛けしてきた。

その言葉に、「はっ！」と敬礼を返すと軽く足を広げ楽な姿勢になる。そこまで終えて漸く気がついた。何故、艦長が待つように言ったのか。

艦長席の前に広がる空中に投影されたスクリーン。そこには、ヘルメットで邪魔をされて顔は良く分らないが、厳しい目つき。そして引き締められた口元。だが、セツナがスクリーンに顔を向けた時の一瞬だが笑顔を浮かべていた。

スクリーンに映っている人物は、セツナ、スパーダと同じく『ユーナディア』のパイロットの1人で唯一の女性である、ユカ・キリサキだった。

セツナも、ユカに笑みを返すと2人の会話を聞く。

「では、キリサキ准尉。見つけた惑星は『アルカディ』と呼ぶ事にするが。そのまま、『アルカディ』へと突入し『アルカディ』の様子を通信で報せてくれ」

「了解。これより、発見した惑星『アルカディ』へと突入します」

その会話を聞き、セツナは咄嗟に艦長に詰め寄る。

「艦長！ これはどういう事ですか！？」

「なんだね、准尉？ 新たな惑星を発見したんだよ、そして発見した惑星を調べるようにキリサキ准尉に命令を出した。君も聞いていたはずだが？」

「それは分かってます！ ですが、准尉1人では何かあったら大変です！ 調べるにしても一度帰還させ、他の者と一緒に調べるべきではないでしょうか？ 何より、『ガングーバ』の残りエネルギーも少ないはずですよ」

「准尉、艦長である私の命令に逆らうつもりかね？ もし、そのつもりならば直ぐにこの船から降りろ」

あまりにも、クルーの安全を考えていない自分勝手な言葉にセツナは怒りに体が震えてしまう。だけど、このままこのクソ艦長の命令に従えばもし、あの惑星が危険な場所だった場合取り返しのかな

い事になってしまいかも知れない。

そうなつてからでは遅いというのに、この艦長は何故分らない。何故、こいつが艦長なんか勤めているんだ。

セツナは、一度目を閉じて考えを纏める。これならば、少しは大丈夫なはずだ。セツナは何の根拠もないがそう思う事にして、閉じていた目を開けるとスクリーンに映るユカを見つめる。

「ユカ、君が今いる場所の座標位置のデータを教えてくれ。俺が、変わりにその惑星を調べる」

セツナの言葉を聞いたユカは、その言葉を否定する様に首を横に振り笑みを浮かべた。

「ありがと、セツナ。でも私なら大丈夫だから」

そう言ったユカは、セツナの方に向けていた視線を艦長へと移す。

「では、艦長。突入します」

セツナとユカの会話を聞いていなかったように、艦長は大仰に頷き気持ち悪い笑みを浮かべた。

その笑みを見てしまったセツナは、殴りたくなる気持ちを抑えユカの無事を祈りスクリーンを見つめる。

ユカが大きく上下に揺れる。おそらく、大気圏に突入している最中なのだろう。その上下に揺れ続ける画面を見つめ続け、1分ぐらいだろうか。もしかしたら、それ以下かも知れない。

突然、スクリーンがシャットアウトし暗闇に包まれる。

セツナは、最初はそれが大気圏を越えた影響で通信が途絶えただけ

だと思った。だが、1分。2分と経とうが暗闇に包まれたスクリーンにユカの顔が映る気配がしない。

セツナは、嫌な考えが脳裏を過ぎり通信を管理している機械の前へと走りよりそこにあるマイクに向かって声を掛ける。

「ユカ！ ユカ！ 聞こえるか？ 聞こえたら返事をしてくれ！」

そうマイクに向かって呼びかけっていると、ピーという音が流れ識別信号を受信している画面を見る。

” YUKA SIGNAL LOST ”

と、その画面には表示されていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3923ba/>

惑星探索船『ユーナディア』（仮）

2012年1月10日12時46分発行